

令和6年度 学校評価結果報告書

上田市立浦里小学校

1 学校教育目標

自分のよさを切り拓く子ども
①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう
③丈夫な心と体をつくろう ④ふるさと（浦里）に学ぼう

2 めざす子どもの姿・中期的な目標（具体的目標）等

自ら気づき 自ら問いかけ（考え）自らやってみる 子ども

3 昨年度（令和5年度）の学校評価の成果と課題

- ・「子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～」では、授業について肯定的な評価をいただいた。「今日勉強すること（学習問題）がわかる」「授業の内容が分かる」「進んで手を挙げて自分の考えを発表している」「友だちと話し合う活動がある」で概ね90%以上の児童が「そう思う、まあそう思う」と答えていた。授業研究会や研修会を実施し、授業のあり方のイメージを共有したことの成果であると考ええる。
- ・「自他の良さを認め合う場面の位置づけ」では、「先生はがんばるとほめてくれたり、はげましてくれたりするか」で90%以上の児童が「そう思う、まあそう思う」と答えており、「子どもと関わる時間」を確保し、児童のよさ・強みを知らうと取り組んだ成果と分析した。反面、「自分のことを大切に感じるか」で「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた児童が15%（昨年度25%）おり、自己肯定感を高められるようにしていく必要性を感じている。
- ・「運動・みんなで遊ぶ時間常化」では、体みがきの講師による定期的な体づくりは推進できたが、マラソンへの取り組みに個人差が生じ、「マラソンなどの体力づくりに取り組んだか」で「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた児童が27%いた。今年は春にマラソン大会を設定し、その後意識が低下したことが理由と考えられる。来年は11月にマラソン大会を設定し改善を図りたい。
- ・「子どもの気づきや願いを基にした探究的な学び」では、アフターコロナで新しい形を模索しながらふるさと学習に取り組み、学習発表会でその成果を発表出来て保護者や地域の方から肯定的な評価をいただいた。

4 今年度の重点目標と目標達成のための具体的取組

重点目標	具体的取組
①子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～	○日常の授業のさらなる充実を（三観点を意識して） ・ねらいを明確に（疑問形の学習問題を設定） ・メリハリのある授業の流れ ・ねらいの見とどけ ・学習評価の研究 ○児童理解を基盤においた授業構想を ・教師が児童のよさ・強みを知る ・「子どもと関わる時間」の確保 ・複数の職員による実態把握と支援 ・特別支援教育部会との連携 ○意義を感じ、やりがいのもてる家庭学習の推進 ・家庭学習の充実 ・個に応じたICTの活用 ○教科支援ボランティアの活用（音楽・書道・家庭科・そろばん・生活科・スポーツテスト等） ○連学年授業、外部講師の利用、一部教科担任制の推進 ○本年度の授業づくり、職員研修の充実 ・校内における授業研究会 ・各種職員研修 ・非違行為防止研修
②自他のよさを認め合う場面の位置づけ	○一人一人が安心して生活できる居場所づくり ・「相談週間」を位置づけ、1人ずつの思いを聞く。 ・聴く、受けとめる、推測する姿勢を育てる ・連学年担任をはじめとする、複数の教師の関わり ・役割と達成感のある学級活動 ・リソースルームの活用 ・人権同和教育や道徳の位置付け ○うるおいのある環境の維持 ・環境美化活動や清掃活動の師弟同行 ・人権の花の栽培 ○クラス、異年齢、全校や他校、地域等集団での活動の充実
③運動・みんなで遊ぶ時間常化	○運動の日常化の促進（丈夫な身体づくり） ・朝マラソンの習慣化 ・「みんなで遊ぶ時間」等、異学年と遊ぶ機会の設定 ・体を動かすのが好きな児童に ・体みがきで学んだことを活用する ○野菜等の栽培と食育の融合 ○外部と連携した健康教育の推進
④子どもの気づきや願いを基にした探究的な学び	○地域や家庭との連携 ○地域素材の教材化 ○ふるさと学習における探究学習の改善・充実 ○ふるさと学習発表会の実施 ○校舎を大切にする日

5 評価の方法

1 自己評価（児童、保護者アンケート等）

- ・毎回の授業参観日の折に、アンケートをとり、その集計結果を提示しながら、授業を振り返る。
- ・1, 2学期の年2回、児童・保護者・職員 2学期に1回、地域全戸・学校支援組織（お助け隊）へのアンケートを実施し、実態を洗い出す。

2 学校関係者評価（組織等）

- ・学校運営協議会に上記結果を提示すると共に、授業参観を通して子どもの実態把握をしていただき、学校運営に対しての意見をいただく。

6 自己評価（児童、保護者アンケート等含）の結果と分析

- ・「子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～」では、「授業の内容が分かる」で90%以上の児童が「そう思う、まあそう思う」と答えたが、振り返りについては90%に届かなかった。また、保護者からは、授業については概ね肯定的な評価であったが、基本的・自主的な学習習慣については、身につけていないと感じている保護者が3割を超えた。自主的な学習習慣が身につくような授業の在り方や、家庭学習の在り方を探っていく必要があると考えられる。
- ・「自他の良さを認め合う場面の位置づけ」では、「思いやりの心をもって、友達となかよくしていますか」で、低学年では100%高学年では90%以上の児童が「そう思う、まあそう思う」と答えている。「子どもと関わる時間」や「相談週間」、毎月のアンケートなどを通して、学校が安心して過ごせる場となるよう支援してきたことがトラブルの早期解決につながっている。しかし「自分のことを大切に感じるか」で「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた児童が16%（昨年度15%）おり、特に高学年で自己肯定感を高めるよう指導していく必要を感じる。
- ・「運動・みんなで遊ぶ時間常化」では、マラソン大会を11月に行ったことで、長期間において朝のマラソンに積極的に取り組んだ児童が多く、「マラソンなどの体力づくりに取り組んだか」で「あまりそう思わない、そう思わない」と答えた児童が17%（昨年度27%）に減少した。マラソン大会後も朝マラソンに取り組む習慣が継続しているので、健康委員会と連携して呼びかけていく。また、「帰宅後や休日に、外で体を動かして遊んでいますか」に保護者の46%が「あまりそう思わない、そう思わない」と答えている。体を動かす楽しさを感じ、運動することが日常化するように促進していく。
- ・「子どもの気づきや願いを基にした探究的な学び」では、「家庭・地域・学校の三者が協力して子どもの教育に関わっていますか」に保護者の90%以上が「そう思う、まあそう思う」と答えている。地域の協力で、様々なふさと学習を行うことができた。さらに探究的な学びになるよう、連携を

7 学校関係者評価の結果と分析

「授業に集中し、自ら手を挙げて意見を言う姿が見られた。連学年の交流などにより、お互いを思いやる心が育っている。お助け隊の協力もあり、ふさと学習により浦里から多くのことを学んでいる。」との意見をいただき、概ね目標は達成されたと分析した。今後、「お助け隊の活動をPTAにもっと伝えるかたちにしていくとよい」という意見もいただいたので、HP以外での伝え方等を考え、連携を深めていきたい。

8 自己評価・学校関係者評価の公表

学校運営協議会において書面にて公表。地域、保護者の皆様にはホームページにて公表している。

9 設置者（上田市・上田市教育委員会）への要望等

配慮を必要とする児童のために、支援員加配や時数増へのご配慮をお願いしたい。

また、学校施設の老朽化に伴う安全面に不安がある。トイレの改築を実施していただき、保護者からは安堵の声が聞かれた。今年度、幹が空洞化している木が見つかり、ボランティアに伐採してもらったが、ボランティアも高齢化してきているため、予算の中で業者をお願いできるようにしていただきたい。

10 まとめと次年度に向けて

- ・少人数のよさを生かし、児童理解の時間を大切に、児童の興味関心や強みを取り入れながら、主体的探究的な学びとなるよう授業づくりをしていく。また、振り返りを大切に考え、基本的・自主的な学習習慣がつくよう、授業と家庭学習のつながりについても考えていく。
- ・子どもが自己肯定感を高められるよう、全職員で関わり、よさを認め伝える場を大切にする。
- ・朝マラソンの継続を呼びかけ、休み時間などに体を動かしたり他学年と関わったりすることが日常化するよう「みんなで遊ぶ時間」や「体みがき」などを位置づける。
- ・ふさと学習について、双方向のやりとりとなるよう地域との連携をさらに深め、子どもの気づきや願いを基にした学習となるようにしていく。